

- 1 報告地区：旭川地区
- 2 事例報告学校名：旭川市立旭川第二小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 高田 敏也
- 4 キーワード：豊かな体験・交流活動



1 はじめに

旭川第二小学校は、明治35年（1902年）に「旭永簡易教育所」として開校され、117年の歴史と伝統がある。地理的には、旭川市中心部より東に位置して忠別川に沿い、旭正・忠別の2地区からなる。田園地帯が広がる地域で、学校の歴史と同様に地域としての歴史も古い。開校当時の児童数は21名で、最も多かったのは昭和33年の428名である。現在の児童数は17名で、2・4年、5・6年の複式学級と特別支援学級2学級の計4学級で活動を進めている。長い歴史と伝統のある本校においては、地域の教育資源を生かした活動も多く、時代とともに多様な内容を計画して取組を進めてきたところである。

本稿では、現在行っている豊かな体験・交流活動について実践を紹介する。

2 地域の教育資源を生かした豊かな体験・交流活動

(1) とんぼの学校

「生命や人との関わり、自分たちの住む地域を大切に思う心情を育む」ことをねらいに、生活科・総合的な学習の時間に位置付けて行っている活動である。

地域の方から水田の一部をお借りするとともに、講師も依頼している。子どもたちが植えた稲から収穫したお米も頂くなど、多くのご支援に支えられている。

① 田植え体験

現在では全て機械化されているが、素足で水田に入り、昔どおりに苗を一本ずつ手で植える活動を体験させていただいている。

② 観察

稲刈りまでの間に、2回の観察を行っている。田植えをしたときの苗の状態が、どのように変化（成長）しているかについて、時期を決めて観察している。

③ 稲刈り体験

稲刈り用の鎌を使って、一株ずつ手で刈っていく。保護者も一緒に活動しており、児童が刈り取り、保護者が稲をまとめるという分担で行っている。



田植え



稲刈り

(2) 写真教室

写真撮影を通して、「思考力や表現力を育むとともに、主体的な学びの充実を図る」ことをねらいに、生活科・総合的な学習の時間に位置付けて行っている活動である。

地域の写真愛好家団体の方々に講師にお招きし、実技指導をいただくとともに、児童個々が撮影した写真を発表する場を設けて、講評もいただいている。

① 実技指導1

講師の方から写真を撮影する時のポイントを説明していただいた後、児童個々が撮影の対象物を選択して撮影を行っている。

② 実技指導 2

撮影した写真の中から自分で1枚の写真を選択し、皆の前で発表する活動である。撮影するに当たって、いろいろと考えたことや工夫したことなどを発表し、講師の方からも講評をいただいている。



撮影ポイントの説明



撮影した写真の発表

(3) 老人クラブとの交流

生活科の学習として、地域の老人クラブの方との交流を行っている。前半は児童が考えた遊びコーナーに老人クラブの方をお招きして遊んでいただく活動で、後半は老人クラブの方が考えてきた昔の遊びを児童と一緒に遊ぶという活動である。

今回児童が考えた遊びは、「魚釣り遊び」「くじ引き」「スマートボール」で、老人クラブの方の遊びは「ケンパ」であった。地域の方がどんな遊びをしてくれるか、子どもたちは毎年楽しみにしている。



魚釣り遊び



ケンパ遊び

(4) ふれあい集会

地域の方との交流活動で、集大成となるのが「ふれあい集会」である。「これまでお世話になった地域の方々に感謝の気持ちを表す」ことをねらいに行っている。「とんぼの学校」でいただいたお米と、自分たちが畑で育てた「ジャガイモ」「ニンジン」「エダマメ」を使ってカレーライスを作り、地域の方々に食べていただいた。

全校を2つの班に分けて、縦割りの班で活動をしている。作られるカレーライスの味も異なるので、それぞれの味を地域の方にも楽しんでいただいている。



カレーライスの盛り付け



地域の方との食事

3 おわりに

歴史と伝統のある本校において、このような豊かな体験・交流活動を継続できるのは、やはり地域の方々の温かい支えがあってこそである。これからの激変する社会において、子どもたちに身に付けさせる資質・能力とは何かをしっかりと見据え、地域の方々にお力添えをいただきながら、学校教育の充実に向けて今後も取り組んでいきたい。